

Voluntary Activity

自主活動

自主活動とは、参加青年たちのアイデアと意思により自由に企画・運営をする活動のことです。自分の熱い想いを各国参加青年と共有できる絶好の機会でもあります。

GLAP (Global Leaders Activation Project & Platform)

佐藤 清加

私は、「自ら企画を興し、形にしていく」というリーダー像のもと、プロジェクトの立て方やマネジメントに関するセミナー、支援者や仲間を作るためのプロジェクト立案コンテストなどを企画・実施する「GLAP (Global Leaders Activation Project & Platform)」を立ち上げ、リーダーを務めました。

プログラムが始まる数カ月前から、コンセプトに賛同してくれた顔も知らないポーランド参加青年たちとスカイプ・ミーティングを何度も繰り返し、チームとして仕事をできたことは、かけがえない経験となりました。特に、人を巻き込んでいくことがとても難しく、人を動かすには、正しさを頭で考えるのではなく、感情が大切なことを痛感しました。この経験から最近ではサービスデザインや経営学の組織論について勉強を始めました。

船上では何かしら行動する度に問いが生まれ、またその答えも船の中に転がっています。この船での経験は、新たな視野を与えてくれ、私を次のステップに引き上げてくれました。これからの未来にワクワクしています！



International Tea Exchange Party

三木 浩江

私は、各国のお茶とお菓子を持ち寄ってお茶文化の国際交流を図る「International Tea Exchange Party」を主催しました。そこで強く感じたことは、思い切って発信することの大切さ、仲間の大切さです。

お茶に関心があるのは自分だけかもしれないと思っていたのですが、企画を発表してみると予想外に賛同者が多く、驚きました。また、活動の準備が追いついていなかったときには、様々な国の青年が「何か手伝おうか？」と積極的にサポートしてくれました。さらに参加者が各国ブースを運営してくれたり、参加者全員が主催者のように会を盛り上げてくれたのです。お茶を通して和やかな雰囲気を楽しむ参加者を見て、国境関係なく助け合い、ひとつのものを作る素晴らしさを実感しました。

多国籍な青年が一堂に会し、人としてつながり合う船での経験は、今後私が生きる上で大切なものをたくさん教えてくれました。思い切って自分のアイデアを発信し、この自主活動を企画して本当に良かったです。



クラブ活動

参加青年が主体となって、自国の文化を特徴づけるダンスや音楽、言語、伝統工芸などを他の参加青年に教え、互いに学び合う活動。主催者として自国の文化を紹介したり教えたりするか、参加者として他国の文化を学ぶか、参加青年は必ず1人1つのクラブに所属します。最後に各クラブの活動内容や成果を発表する場(エキシビション)があります。

和太鼓で「和の心」を伝える

大津 萌

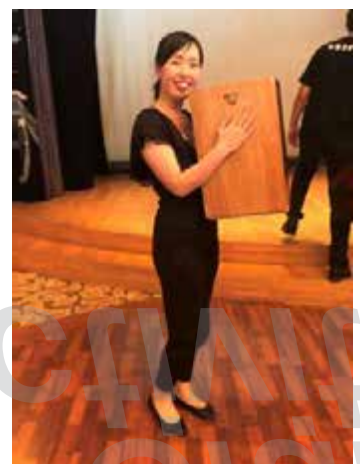
日本の伝統音楽のひとつである和太鼓を通して、外国参加青年の日本への興味・関心を高めてもらうことを目的とし、ナショナル・プレゼンテーションで和太鼓を演奏した日本参加青年が中心となってクラブを運営しました。運営メンバーのほぼ全員が初心者という私たちが、外国参加青年に何を伝えられるのか…。技術を伝えたり、和太鼓をただ楽しく打つということだけでは意味がありません。それよりも、日本人としての「和の心」、そして聴く人の心を揺さぶるような勇壮な響き、これらの魅力を伝えるため工夫して練習に励みました。エキシビションでは、クラブ参加メンバー全員が心をひとつにし、声を掛け合いながら演奏を行うことができました。外国参加青年の中には「母国に帰っても和太鼓を続けたい」と言ってくれた人もいて、クラブの運営に携われて心から良かったと思いました。



楽器を通じたコミュニケーション

岩田 有香

乗船中で一番楽しかったのはクラブ活動です。私が参加した「ペルーピアノダンス&ミュージッククラブ」では、ペルーのダンスとカホン（箱型の打楽器）演奏の2つのグループに分かれて練習をすることに。私はカホンに興味津々で、迷わずカホンを選びました！カホン隊は計4人と少人数だったので、ていねいに教えてもらうことができ、クラブ活動は毎回心から楽しみにしていました。私は英語が得意ではないので、ついていけるかな…と不安もあったのですが、楽器や音楽というツールを使って、言葉にはない、また言葉だけでは得られない豊かなコミュニケーションを図ることができたように思います。最後にプレゼントしてもらったカホンは宝物です！



Committee Activity

委員会活動

陸上・船上でのプログラムをより円滑に、主体性を持って行うために、さまざまな委員会が組織されます。参加青年は全員どこかの委員会に所属し、各委員会は日本参加青年と外国参加青年で構成されます。ここでは、数ある委員会の中から、3人の体験談を紹介します。

船ではこんな委員会があります！

AGL 委員会
イベント委員会
寄港地活動委員会
クラブ活動委員会
コース・ディスカッション委員会
スキル・セミナー委員会
ナショナル・プレゼンテーション委員会
PY セミナー委員会
プロジェクトマネジメント・セミナー委員会
リーダーシップ・セミナー委員会



AGL 委員会

前田 瑞歩

AGLとは「アシスタント・グループ・リーダー」のことで、各レターグループの取りまとめ役です。AGL委員会としての主な仕事は、管理部と参加青年の橋渡し役となって、参加青年が能力や機会を最大化できる土台を作ること。参加青年が主体的にプログラムを作り上げていけるよう、みんなの体調を気遣ったり、日々の伝達を徹底したりして、良い環境を作ることに尽力しました。

AGL委員会には決まった仕事が少ない分、自分たちがすべき仕事や課題を自ら見つけていく必要があり、自発的な行動をどのように委員会メンバーに促すか、役割意識を持ってもらうかという課題には、最後まで苦戦しました。委員会活動を通して、私たちが普段無意識に取っている日本的アプローチは必ずしも正解ではなく、相手の立場に立って柔軟に言葉や行動を変えること、そのために前提として日々のコミュニケーションから信頼関係を築くことが大切だと学びました。

イベント委員会

小林 愛奈

イベント委員会では、陸上・船上でそれぞれ1回ずつ行われるスポーツ&レクリエーション（以下スポレク）と、フェアウェルパーティーの企画・運営をしました。プログラム中に委員会活動のために確保されているオフィシャルな時間は少なく、限られた時間でどれだけ全員が参加して良かったと思えるイベントを作り出せるか試行錯誤しました。しかし、バックグラウンドの全く異なる11か国の青年が集まれば、活動がスムーズに進むわけもなく…。毎回のように姿を現さないメンバーがいたり、イベント前日にもかかわらず企画書を提出できていなかったり、イベント委員自身が翌日に控えているスポレクの内容を把握していなかったりと、いつもギリギリになって焦って準備していました。それでも結果的にスポレクもフェアウェルパーティーも成功し、無事に終わらせることができました。11か国の人たちと協力してイベントを作り上げたことは、私にとってとても良い経験となりました。



コース・ディスカッション委員会

岩崎 真夕

私たちの仕事は、コースディスカッションでの学びを最大化するためのサポートです。主な仕事は4つ。コースディスカッション運営におけるファシリテーターのお手伝い、寄港地での地元青年との交流のファシリテーション、サマリーフォーラムの企画や準備、活動報告書の作成です。私が所属した「防災のための人材育成コース」では、「日本参加青年が、語学力や専門知識の不足により、あまり議論に参加できないこと」が課題でした。そのため、コースディスカッションの前後に日本語での予習・復習セッションを企画したほか、ディスカッション中には「ここは安全な場だから気楽に発言して」と呼びかけ、雰囲気づくりに努めました。仲間と協力して学びと挑戦の場作りをできる委員の仕事は、私にとって有意義な経験となりました。



Letter Group Activity

レター・グループ活動

レター・グループは、プログラム中の活動を行う基本単位となるグループで、日本参加青年と外国参加青年あわせて20人ほどで構成されています。A～Kの11グループがあり、日々のミーティングや、レター・グループごとに行うアクティビティを通して、多くの経験を共にします。



A



B



C



D



E



F



G



H



I



J



K

レターグループは家族です！

塚本 拓也

レター・グループでの主な活動は、大きく分けて2つあります。1つは、モーニングアッセンブリーでの点呼および体温測定。もう1つは、AGLからの情報共有やスケジュール確認等を行う、レター・グループミーティングです。

レター・グループミーティングは、ほぼ毎日夕方に行われます。ミーティング後に時間があれば、みんなでゲームなどをして遊ぶことも。グループごとにオリジナルTシャツを作成するほか、ユニークな掛け声を作ったりするグループもあり、レター・グループの活動は多様性に富んでいます。レター・グループの絆を深めることが、最高の思い出を作るカギの1つです！

プログラムが始まる前に、既参加青年から何度も「レター・グループは家族」だと言われました。そのときは「何が家族だ？ そんな簡単に家族と言っているのか？」と疑問に思っていました。船を降りた私から1つ言いたいことがあります。「レター・グループは家族です！」笑インターネットが通じない船では、情報共有をするためのレター・グループミーティングが毎日行われ、洋上研修の特殊性を感じました。船に乗っているときには当たり前すぎて、ときには休みたいな…と思うこともあったレター・グループミーティングですが、思い返すと、船で一番安心できる、くつろげるひとときでした。

レター・グループ活動を通して、よい思い出がたくさんできました。ありがとうございます！